

# Wide Angle

# 「出会う人みんなが輝いて感じる」 「被写体の幸せを願ってシャッターを切る」

9月23日から10月10日にかけて、福岡市では「Fukuoka Art Next Week (通称:FaN Week)」という現代アートを通じて福岡を盛り上げるイベントが開催され、Art Fair Asia Fukuokaをはじめ、福岡市内各所でアートを中心とした様々な企画が開催され、福岡市が現代アートで大いに盛り上がっていた。期間中の写真展として、福岡大博町のalu.にて、九州産業大学大学院にて現役の学生として写真表現を研究している木下史雄さんの展覧会が開催されていた。木下さんの活動は福岡でも多くの展覧会で拝見しており、今回福岡の若手写真家として精力的に活動している木下さんを取材させて頂いた。

木下さんは福岡生まれ。写真を意識始めたきっかけは家族旅行。家族と旅行に行った際に親が旅行の思い出を一眼レフで撮影していて、写真に残すという事に興味を持ったという。自分で写真を撮り始めたきっかけは、福岡第一飛行場(雁ノ巣飛行場)が取り壊されることを知り、子供の頃に遊んだ場所を記録に残したいという思いから自分で撮影してみた。その後は趣味的に写真撮影をしていたが、まだ本格的に写真を勉強してみようとはまでは意識していなかった。本格的に写真の道を意識し始めたのは2017年、九州北部豪雨がきっかけだったと話してくれた。

九州北部豪雨が起る3日前に東峰村を通りかかった際に、綺麗な風景だと感じて撮影をしていた。しかし、その後の九州北部豪雨によってその景色は無くなってしまった。豪雨災害の衝撃を感じつつも居ても立てず居られず、ボランティアとして東峰村での泥掻きを手伝った。豪雨災害による被害と災害復旧の現場を目の当たりにして、そこで関わっている人たちの現場の姿を記録に残したいと思いボランティアの合間にも撮影を行った。この経験がきっかけとなり、自分で感じたことを残す写真というものに興味を持ち、大学で本格的に写真について勉強する道を選んだ。災害復旧のボランティアもひと段落した後に、今回の災害の原因が、自然災害なのか、それとも豪雨災害を意識せず無計画に山を切り崩していたことによる人災なのか、その原因がどこにあったのかを確認したくて、今でも継続的に撮影を続けているという。

大学で写真について学び、様々な人との出会いを経験したことで「人との縁」を意識することが多くなった。色々な人との関わりを通して、人との縁のありがたさと、出会う人みんなが輝いているように感じ、それを撮りたいと思ったと話す木下さん。人との縁を感じとり撮影するスタイルは、豪雨災害の災害復旧の現場で懸命に働く人々を記録に残したいと思った気持ちにも通じていると私は感じた。

大変なこともいっぱいあるけれど、それ以上に嬉しいことや楽しいこともいっぱいある。恩師であるハービー・山口先生の仰った「人の幸せを願ってシャッターを切ること」が自分にとって大切な言葉になっていると話す木下さん。「撮る時はいつも被写体の幸せを願ってシャッターを切っている」とそう話す彼自身も輝いて見えた。

幸せを願いシャッターを切る彼は、今日も「幸せな縁」を撮り続けているのでしょう。

文 村上博史



**Profile**

**木下 史雄 Fumio Kinoshita**

福岡県福岡市生まれ。  
2022 九州産業大学 芸術学部 写真・映像メディア学科 写真専攻 卒業  
2022 九州産業大学 芸術研究科 造形表現専攻 写真・映像領域 博士前期課程 在学中  
大学院では、今から約9万年前に噴火したとされる熊本県阿蘇山Aso-4火砕流の到達範囲の撮影と福岡市東区奈多遺跡について研究中。人々の撮影も継続中。  
2022展示 | 「九芸卒展2022」(九州産業大学/福岡) / 「九州産業大学 芸術学部写真・映像メディア学科 写真専攻 卒業制作選抜展」(キャンオープンギャラリー2/東京) / 「九芸展2022」(大分県立美術館/大分) / 「景を泳ぐ」九州産業大学 芸術学部 写真・映像メディア学科 進路研究室写真展(福岡市美術館/福岡) / 「島展」九州産業大学 芸術学部 写真・映像メディア学科 百瀬ゼミナール写真展(福岡市美術館/福岡) / 「SHAROL XIAO Photo Exhibition」(Haff Fukuoka THE LIFE/福岡) / 「台日合同交流展」(台南応用科技大学 美術学部/台湾) / 「動く海の中道ー消えゆく道跡ー」(福岡市博物館/福岡) / 「18」FUKUOKA ART WEEK 2022 (alu coffee/福岡) / 「the finders 2022」(INN THE PARK福岡/福岡) ラジオ | 2022 World Street Chart(FM FUKUOKA/9/28)

## 長崎県美術館

長崎市出島町2-1  
092(75)9100  
開館時間/10時~20時(入館は開館30分前まで)  
休館日/第一・第四月曜日(祝日の場合は翌日)

## 「県民ギャラリー」入場料金・無料

## ● P.P.LS GALLERY Vol.2 出逢う EXHIBITION

11月1日(火)~11月6日(日)

## ● 長崎県写真学習会作品発表写真展

11月15日(火)~11月20日(日)

## ● 第34回池田勉写真展

肥前長崎の風土と文化  
12月13日(火)~12月18日(日)

「フォトガイドふくおか」情報掲載・広告について  
銀行ロビー・喫茶店などの飲食店・ショップの壁面その他で写真展を開催される方。個人やグループ展・写真関連企業情報掲載ご希望の方。「フォトガイド」への掲載をご相談ください。毎号奇数月の25日が原稿の締切です。無料枠のほか、写真や内容を確実に掲載する広告枠(マンモス)もございます。

## アクロス福岡

福岡市中央区天神1丁目1番1号  
092(75)9100  
営業時間/10時~18時  
※初日12時から 最終日16時まで  
休館日/期間中無休  
会場/2Fメッセ・シホワイエ

## ● 幕末のレンズで撮る現代の福岡

11月28日(月)~12月4日(日) 10時~18時  
幕末に製造されたレンズを用いて、九州各地の商店街で撮影。大判の白黒フィルムでの肖像写真などを展示。見どころは博多祇園山笠の集合写真。

## ● 第3回 菊池勝也写真展

12月12日(月)~18日(日) 10時~18時  
フォトノテスなどで受賞した作品を中心に九州各地の祭り、花火、イルミネーション、自然等の作品を展示。



▲幕末のレンズで撮る現代の福岡



▲菊池勝也写真展

## 福岡市美術館

福岡市中央区大濠公園1-6  
092(714)6051  
開館時間/9時30分~17時30分(入館17時迄)  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

## ● 大濠・舞鶴公園とその周りの魅力

11月1日(火)~11月6日(日) 「ギャラリー」大濠公園等で撮影した鳥・花・風景等の写真を約140点展示

## ● 第20回金曜会作品展

11月16日(火)~11月20日(日) 「ギャラリー」写真(素材)41点を展示

## ● 第17回福岡文化連盟祭り

福岡アート・ビエンナーレ2022  
11月21日(火)~11月27日(日) 「ギャラリー」洋画・日本画、書、陶芸、人形染織、写真、デザイン等を展示

## ● 第42回南区美術展

11月26日(火)~12月4日(日) 「ギャラリー」A・B・C・D」絵画、彫刻、書、工芸、写真、グラフィックデザインを展示

## ● 第51回福岡市医師会文化祭美術展

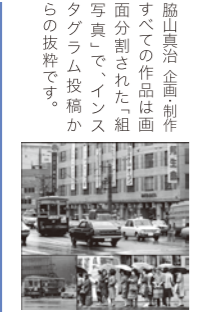
11月29日(火)~12月4日(日) 「ギャラリー」水彩画、油絵、アクリル画、写真、書、陶芸、工芸など約40点を展示

## ギャラリー風

福岡市中央区天神2-8-136 新天町北通り  
092(711)1510  
開館時間/11時~18時30分(最終日17時迄)

## ● マルチ映像の傍流写真展

〜インスタグラムから見えるマルチフレームの中の拡張世界〜  
11月21日(月)~11月27日(日)



臨山真治 企画制作  
すべての作品は画面分割された「組写真」で、インスタグラム投稿からの抜粋です。

## フォト銀友写真展

福岡銀行本店営業部  
福岡市中央区天神2-13-1  
092(723)2131  
開館時間/平日9時~17時(土曜10時)~  
休館日:日曜日

## ● 第25フォト銀友写真展

11月21日(月)~25日(金)  
福岡銀行退職者の作品展

## 山本文房堂画廊

福岡市中央区大濠2-4-32  
092(751)4342  
観覧時間/12時~18時 ※最終日は16時迄

## ● ティーショップト天神

12月20日(火)~12月25日(日)  
フォトノテス12人と歌人8人が「天神レザパン」にて日々に変貌する街を記録します。

## 海凜房

福岡市西区今津80-3  
092(401)0237  
開館時間/金・火12時~18時 水木定休  
※(休エターナルラボプリント取次店)写真展、写真の販売を希望の方へ連絡ください

## ● 重岡庸子写真展「佐賀真美術館」

10月30日(日)~12月27日(火)

「掲載中の写真展は状況により変更となる場合がございます。」

## 周南市美術館

山口県周南市花皇町10-16  
0834(2)8880  
開館時間/9時30分~17時(入館は16時30分迄)  
休館日/月曜日(休日・祝日の場合はその翌日)  
http://s-bunkajp/bihaku/

## ● 林忠彦記念室(常設)

「写真集発刊65周年記念小説のふるさと」  
10月25日(火)~12月26日(水)

「婦人公論」に1956(昭和31)年の一年間にわたって連載され、翌年、林忠彦初の写真集として出版されたのが「小説のふるさと」です。



「青銅の基督」-長崎山手町一帯を縫うオランダ坂

■観覧料/  
一般200円(160円)大学生等100円(80円)  
※( )内は団体(20名以上)  
企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

● 表紙の写真「Broken in Silence」  
李若琦 Li Ruoqi / 1996 中国山東省出身  
2022 九州産業大学大学院 芸術研究科 写真映像領域 修士課程 修了  
2022 九州産業大学大学院 芸術研究科 写真映像領域 博士課程 在学中  
個人的な視点から、自然環境と人間活動との相互作用に焦点を当てている。  
2022 第二回ふげん社写真賞ノミネート

■発行/フォトガイドふくおか発行運営委員会  
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル205  
☎092(287)5599 info@photoguide.fun  
□デザイン ……神谷風花 □代表・編集長 …村上博史  
□印刷 ……株式会社仲和

※1・2月号の情報・広告のお申込みは  
11月18日(金)~25日(金)までにご連絡ください

